

## 令和3年1月 経営協議会（対面・オンライン併用）議事録

I. 日 時 令和3年1月21日（木） 14時00分～16時05分

II 場 所 千葉大学けやき会館 レセプションホール（3階）

III. 出席者 徳久学長、加賀見、香藤、河田、黒木、島田、銭谷、  
西堀、萩原、舩橋、正宗、宮坂  
中谷、渡邊、関、山田、松浦、堀、小澤、中村、米村、  
中山、山本各委員

がざー 角倉、山本各監事  
(欠席者：有馬、犬養、岩田、金原各委員)

IV. 前回議事録について  
原案のとおり承認された。

V. 審議事項（◎学外委員、○学内委員）

1. 中期目標・中期計画の変更について

中谷理事から、中期目標・中期計画の変更箇所（①看護学教育研究共同利用拠点の名称変更及び②看護学研究科の収容定員の変更）について、資料に基づき説明があり、審議の結果、承認された。

2. 墨田サテライトキャンパスの開設について

中谷理事及び渡邊理事から、墨田サテライトキャンパスの開設について、資料に基づき説明があり、審議の結果、承認された。

主な意見は以下のとおり。

◎ 千葉大学は大変中身のある研究、あるいは教育活動をしているが、全般的には地味な感じの印象が強い。このキャンパスが本格的に稼働して様々な成果を出してくれば、千葉大学のイメージを一新するだろうと期待している。その上で3つほど質問したい。最初この話を伺った時に、デザイン界で大変著名な方であるとか、このキャンパスの顔になるような人が要るのではないかと思った。そういう方がピックアップされているのであれば教えていただきたい。2つ目は、千葉県内の自治体や企業がこのキャンパスを活用したり、あるいは連携したりすることは当然できると思うが、地理的に離れている中でどのようにアプローチしたらよいかかわからないと思うので、その辺を伺いたい。3つ目は、地域開放スペースがあって土日も開いているということだが、場所も浅草やスカイツリーにも近いので、地元の方はもちろん観光に来られる方も動線上で立ち寄りたりすることもあると思う。そこで千葉大学をアピールするような、地元向けのプログラムも考えておられると思うが、千葉大学をどのように印象付けていくのか教えていただきたい。

○ 1つ目のキャンパスの顔は、デザインの業界では有名な人間がこの教員リストの中にいると思っているが、一般の方はご存知ないかもしれない。来年度から外部の有名なデザイナーを招聘することを計画している。まだ名前を出すことはできない

が、そういう方々をキャンパスの顔として呼びたいと思っている。それから千葉県や県内の企業との話は、我々が今までCOCプラスでやっていた様々な産業があるので、これを例えば東京に持っていくという時の一つの取っ掛かりに使うことは大いにやっていただきたいと思っている。現時点でも例えばZOZOやJTBとはいろいろ連携をしているが、そういうところとの連携も考えている。3つ目の観光客へのアピールだが、キャンパスのある場所がスカイツリーから歩いて20分位かかる。このキャンパスまで誘導することはなかなか難しいと思っているが、よく昭和の映画の撮影で使われる墨田区のキラキラ橋商店街とは既に連携していて、その中にサテライトみたいなものを作っている。そういうところを千葉大学としてアピールしていければと思っている。

### 3. デザイン・リサーチ・インスティテュートの設置について

中谷理事及び渡邊理事から、デザイン・リサーチ・インスティテュートの設置について、資料に基づき説明があり、審議の結果、承認された。

主な意見は以下のとおり。

- ◎ 大変チャレンジングな、そして期待を持てるプロジェクトの話をついた。デザインの根底には、例えば、美意識みたいなもの、それからその時代のものの考え方とか、そういったものもあるような気がする。そういう観点に立つと、100年前に東京工芸大学があったという経緯はわかるが、工学系に偏っているのではないかと思う。千葉大学には文学部があって、その文学の中でそういった美意識だとか、あるいは芸術思想だとか、そういうことを研究されている先生方もいると思うので、ぜひここに参加いただいて、全学挙げてこれを総合的なものとして考えていくことがもっとあって良い気がした。
- まずは最初に工学科、それからデザイン、ランドスケープ、建築というところを出させていただいて、先生のおっしゃったようなところまで広げられればとても良いと思っているので、ご指摘いただいたことを実現できるようにがんばりたいと思う。
- ◎ 定期建物賃貸借契約が30年間あって、キャンパスの運営コストが年間で8,000万円、30年だと約24億円のコストがかかる。これだけの大きなコストを必要とするものを作るからにはそれに見合った目的を達成しなくてはならない。そこで質問したいのだが、これだけのコストがかかって、そのコストに対する見返りというものは計数的にはどのようにお考えなのか。また、ここに配置される先生方は、クロス・アポイントメント・システムによるとのことであった。現在の先生方が現状の教育業務に加えて、新たにこのような業務が加わるということになると思うが、それだけでなく教育と研究で非常に時間が足りない中で兼務をされて、オーバーロードにならないのか。更には、この新しいサテライトキャンパスにおける教育を本当に充実させるには、教育者の数と質と、それからコミットメントが必要になってくると思う。そのコミットメントを高めるには、そこでのコントリビューションが公平に評価される制度が必要だと思う。兼務で派遣される先生方に対する評価はどのように行われ、その貢献が先生方の実績にどのように反映されるのか。
- コストについては、リサーチ・インスティテュートなので、大型の共同研究で資金を得ることを考えている。キャンパス運営に係る年間コストが約8,000万円となっているが、墨田区からの事業費等々の援助もあるので、最終的に大学が支払うのは

恐らく保守費とその他管理費で 2,500 万円と言われている。その 4 倍位の想定で 1 億円、その半分位を共同研究の間接経費にしたいので、共同研究自体はその 3 倍の 1 億 5,000 万円程度を入れることを目標にしている。もう 1 つはその半分の 5,000 万だが、ショートプログラムや 1 タームのプログラムを教育として資金獲得のために販売することを考えている。これも 5,000 万円の間接経費を取るために売上げとしては 1 億 5,000 万円程度を想定している。教員のロード、それから評価については、墨田サテライトキャンパスにフルタイムで出向する教員は、デザイン・リサーチ・インスティテュートという教員組織の中の 3 分の 1 にかないくらいである。その他の教員は、西千葉と墨田キャンパスの両方で自分でエフォートを管理しながら活動するということで、現在 70% 以上のエフォートを申し出ている教員が 5 名、これはほとんど墨田キャンパスでの専従となる。それ以外、70% 以下のエフォートで西千葉と墨田キャンパスを往復する教員が大体 20 名である。そのため、それぞれのエフォートの管理と共に評価をさせていただけると考えている。評価については、本年度から全学の年俸制のシステムが入っているので、その中で研究や社会貢献、教育について評価していきたいと思っている。

- ◎ 企業連携のところで、いくつか企業名を挙げられていたが、学生はそういった企業の方々と一緒にデザイントークや合作するような機会はあるのか。
- 企業との連携については、共同研究では、例えば、いわゆる先行型の研究である場合にはもちろん学生も入るが、教員と学生と企業でクローズドした中でやっていく。建物の中でも 4 階はセキュリティエリアになっているので、そちらの方で研究を進めていく。一方で、企業と学生と海外の大学との共同のワークショップや様々なデザイン活動を行うことについては継続してやらせていただければと思っている。特に大陸間デザインプログラムをデザインでは 10 年ほど前に始めている。これにより既に世界中の 20 のトップスクールと連携がとれているのでそれを継続する。ご指摘のとおり展示スペースが 1 階、あるいは地下 1 階、2 階という様々な所があるので、その成果については内容の大きさに応じてそこで展示をしていく。そして可能な限り、四半期毎に展示の内容を変えていく。3 カ月ごとに展示するものを変えて、地元の方々や OB にもアピールする。あるいはこれから共同研究を想定されている企業の方々にここでの成果というものがどのようなものであるかを見ていただいて、さらなる共同研究をそこで誘引したいと思っている。

#### 4. 国立大学法人ガバナンス・コードへの適合状況等について

松浦理事から、国立大学法人ガバナンス・コードへの適合状況等について、資料に基づき説明があった。併せて、各原則等に対する適合状況等やガバナンスの適切性について意見照会を行い、後日、いただいた意見に対する対応について書面審議を行うこととなった。

主な意見は以下のとおり。

- ◎ 企業で数年前からコーポレート・ガバナンス・コードが導入されて、それに合わせて国立大学にも導入されたと理解した。資料 4-2 で、特にこういうことを注意した、ここが他の大学とは違う点で我々が強調したかったとか、そういうことがあればご説明をいただければと思う。企業の場合もそうだが、全てコンプライしておけばよいという安易な対応が一番問題だと思っている。むしろ積極的にエクスペインするという意味において、ここは大学として工夫のあったところを追加があれば

お願いしたい。

- 千葉大学としての特色ある部分ということで、経営協議会に関わるところをご覧いただきたい。補充原則3-1-1①で、経営協議会の学外委員の選任について、選考方針の明確化と同時に運営方法の工夫について公表しなければならないということがある。学外委員からの意見を法人運営に反映した事例ということで取り上げて、大学の公式ホームページで公表しているという点。2か月に1回開催しているが、そのうちの半分程度を都内で開催をしていて、学外委員の出席に便宜を図っている点。こういった取組みが他の大学とは少し違うと思っている。
- ◎ 企業のガバナンス・コードを書いている立場から少し意見を申し上げさせていただきたい。企業のガバナンス報告書では、自分のところはこれをやる、他の企業にはないけれどもここをやっているというところについては、ものすごいボリュームを使って対外的にアピールしている。そういう意味で、ここは詳しく書いているという説明が今あったと思うが、もっと具体的にスペースを使って、ここで千葉大学の特徴を出していくという形で書いていただければと思った。
- 今いただいたご意見はまさに資料4-1に書くべき確認事項だと思ったので、そこに書かせていただくとともに、実際もう一度本文を見直して、追加で書けるところはもう少し書き込んでみたいと思う。また各委員からもご意見をいただいて少しボリュームをもって書かせていただきたいと思う。
- 今お話に出たことの裏返しかもしれないが、大学がコンプライしていることは確認した。ただ、リスク管理にしても公表事項にしても、やはり世の中どんどん高いものを求められているので、今後のことも含めて、引き続きブラッシュアップしていくことが大事ではないかと思う。そういったことを監事の確認意見として書かせていただこうかなと思っている。

## VI. 報告事項（◎学外委員、○学内委員）

### 1. 令和3年度予算案および令和2年度第3次補正予算案について

松浦理事から、令和3年度予算案および令和2年度第3次補正予算案について、資料に基づき報告があった。

### 2. 令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果について

中谷理事から、令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果について、資料に基づき報告があった。

主な意見は以下のとおり。

- ◎ 総合評価が順調に進んでいるということは、学長以下の皆様の大変な努力の結果だと思う。千葉大学の執行部として、何か問題点、順調でないところがあるという認識はあるのか。
- いろいろな不祥事、例えば研究不正や情報漏洩等があると業務運営のところでマイナスになってしまうが、順調以上をキープしようとしている。現状心配することはないと思っている。

### 3. 医学部附属病院の運営状況について

横手副学長から、医学部附属病院における新型コロナウイルス感染症への対応状況及び1月4日（月）にオープンした中央診療棟について、資料に基づき報告があった。

主な意見は以下のとおり。

- ◎ コロナへの対応を全力で、またスタッフ一同協力しながら行っていることについて感謝と御礼を申し上げたい。現在、東京等の状況を見ていると、重症者のベッドを持っている病院間の患者の受け入れにバラツキがある。千葉大学はICUの数を8床まで伸ばされていて、最大限の努力をされていると思うが、千葉県内における病院間の重篤患者の受け入れベッド数がどのくらいあって、病院間のバラツキが出ているということはないのか。
- 昨年4月の段階では各病院ばらばらで、それぞれに努力するだけだったが、コロナに対しては決して1病院で対応できるものではなく、やはり県下、あるいは市の中でも連携が重要だということで、昨年の第1波以降、千葉県下の医療圏の中で病院連携が行われるようになった。現在千葉県では約1,000床弱、コロナに対する病床の確保が行われていて、千葉大学ではコロナ病床は60床、そのうち8床が重症対応ということになっている。各病院で割り当てているが、やはり病院の中での温度差があるので、県からより強い要請を出して、より多くの病床を確保するという方向に今進んでいる。回復期にある患者さんをしっかり他の病院で受け入れてもらえるように我々が新しい患者さんの診療をできるので、その病院の力、役割に応じた分担が今後進んでいくことが期待されている。
- 県の対策本部の専門部会を取りまとめているが、千葉県内で入院している患者の6割弱は民間病院に入院している。もともと千葉県は特に東葛、東京に近い方は公立病院が少ないのでかなり民間病院にもがんばっていただいている。全体で2,000床確保しているところで7割位入っているが、毎日400から500人の患者が発生しているため、現在、千葉県では約5,000人の患者さんが自宅待機をしている状況である。県庁、あるいは専門部会としてはとにかく死亡者数をいかに減らすか、全体をぐっと後ろへ下げて、何とか重症患者の対応だけをしっかりとやろうというところである。それくらい状況は切迫しているということをご理解いただきたい。
- ◎ 近々ワクチンの接種も始まるということだが、附属病院でも対応することになるのか。もしそうだとすれば準備状況を教えてほしい。
- ワクチンの調達については、現在、県、あるいは市と連携してお話をさせていただいている。恐らく2月中旬に第1陣のワクチンの承認が厚生労働省で出されると聞いている。それを受けて2月下旬にまずは一部の病院で医療従事者への先行接種が始まり、その後、3月上中旬から一般の医療従事者に対する接種が始まる計画になっていると聞いている。千葉大学医学部附属病院においても、3月中旬までを目安に、まず全職員、病院職員に対するワクチンの接種を行う予定である。そして、このワクチンはマイナス70°Cの保存や凍結から融解した後に比較的速やかに接種することが必要なため、附属病院でその仕組みを樹立し、千葉大学以外の関係者にも接種のお手伝いをする計画である。医療従事者以外の方に対する接種はさらにここから1月ぐらい遅れて千葉市を中心に市内の様々な施設で始まる。このような三段階でワクチン接種が進むことが決まり、厚生労働省から説明があったところである。

#### 4. 新型コロナウイルスへの対応について

中谷理事から、本学における新型コロナウイルス感染者について報告があった。続いて、小澤副学長から、現在の授業の実施状況及び来年4月以降のENGINEに関する取組みの検討状況について報告があった。

以 上